

## 平成22年度 第2回角館地域審議会会議録

日 時 平成23年2月22日（火）午後2時

場 所 仙北市角館庁舎西庁舎 二階 第三会議室

出席委員 西宮陽助会長、能美忠堯副会長、鈴木重由委員、相馬博之委員、  
茂木千代太郎委員、渡邊敏明委員、藤原久榮委員、藤井嗣信委員、  
高橋政宣委員、戸澤雅子委員

会議を欠席した委員

経徳紘一委員、鈴木八寿男委員、新山睦子委員、千葉一明委員

会議に出席した職員

企画振興課長 佐藤 強

環境防災課長 高村 省弘

企画振興課 課長補佐 鈴木 一芳

〃 係長 能美 正俊

〃 主査 伊藤 大介

〃 主任 鈴木 匡尚

環境防災課 課長補佐 田口 幸栄

〃 係長 清水 洋衛

会議次第 1 会長あいさつ

2 企画振興課長あいさつ

3 案件

①地域防災のあり方について（雪害対策）

・地域住民が自主的に取り組む地域防災の手法について

（被災防止対策、情報伝達、住民避難、高齢者対策、事後処理等）

②その他

西宮会長

お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。大変いい天気でも春も近づき、あの大雪の迫力を忘れるぐらいです。このテーマに掲げられている防災について、何もわからないが、素人が素人なりに地域に生きる一住民として、日頃感じていることを出していけばいいと思っている。ざっくばらんにご意見を出していただきたいと思います。皆さんの力を借りて、会を進

めてまいりたいと思いますので、よろしく申し上げます。

佐藤企画振興課長

皆様お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。昨年12月20日の合同地域審議会で確認された審議事項の第1点目として、雪害への地域防災の在り方についてご審議いただきたいと思います。即効性のあるもの、中長期に取り組むもの、いずれこの地域を皆さんの手で、守っていくという取り組みにしたいと考えているので、忌憚のない意見をお願いしたい。田沢湖、西木の審議会では除雪問題が主に出た。除排雪、屋根の雪下ろしの作業について保険はどうなっているのかという話も出た。たとえば地域運営体とか、町内会でボランティア活動する場合の保険はどうなっているのか。考えていかなければならないのではという意見も出た。また高齢化が進んでいて、空き家があちこち目立ってきている。急な入院等で空き家になる場合、隣どおしのコミュニケーションがあればいいが、わからない場合の雪について、行政としては所有者が確認できない場合は踏み込めない。この問題に対しては、地域、住民、町内会等が気軽に話が出来る環境を作ることが、地域防災に必要。いずれ行政が出来ること、地域が出来ること、自分で出来ることの3点に分けながら地域防災の手法について、審議をよろしく申し上げます。

西宮会長

資料についての、説明をお願いします。

高村環境防災課長

資料に沿って説明（地域防災の在り方、地域防災計画抜粋 P75、資料編 P70、地域防災の手法について、提出資料）

鈴木企画振興課課長補佐

資料に沿って説明（資料4）

審議

西宮会長

雲沢の地域運営体が、6番目に立ち上がったと今日の新聞に載っていたが、この資料にあるのは、その運営体の事ですか。

鈴木補佐

昨年、田沢が第1号として誕生した。田沢地区を筆頭に、今紹介した運営体の他に除雪はやってないが白岩にもある。市から活動費を交付して、地域の活性化事業を行っている。

西宮会長

資料により進めていきますが、みなさんから項目どおりでなくても、地域の現状と課題を出してもらえれば。市でもきめ細かな計画が出され、進めら

れているようだが、どんなにきめ細かな網をかけても、それぞれの地域ごとに特殊な事情があると思うので、どうしても網からはみ出る事もある。その地域独特のところは、その地域で頑張ってもらわないと。それぞれの委員が住んでいる地域で、こういう所困っている。うまくいっているという所を出してもらいたい。

鈴木（重）委員

県道と市道の除雪する時間がまちまちなので、小道に入る車が通れない。その辺り県と市と連絡を取って除雪できないか。中仙から八割方面に向かう除雪で、県が早く来るので、市道側に山の状態で置かれる。災害ない場合はいいが、あった場合は全然車が通れない状況になる。

鈴木補佐

市道の除雪については、建設課が除雪計画作っている。その中で市が除雪をする基準は、降雪が 10 cm以上に達した場合、地域担当職員が確認し午前 0時から7時までの間に除雪を実施する。県の場合も同じような基準だと思う。

鈴木(重)委員

県へ頼んで、市道への入り口をよく寄せてもらう事は出来ないか。

茂木委員

後から来る除雪車が小道へ入る所を寄せればいい。

鈴木(重)委員

どちらでもいいから、小道に入る所を寄せてもらいたい。連絡取りながらやってもらいたい。

佐藤課長

県道の除雪が早く、市道の除雪が遅いので、市道に入れないということですね。状況を聞いたので、担当に要望あったと伝えます。

渡邊委員

白岩地区ですが、やっぱり高齢者について、子供たちが東京へ行って、除雪をどうするか非常に問題がある。頼んでは行くが、とても費用がかかる。今年みたいに雪が多いと屋根の雪下ろし、道路から玄関まで結構距離ある家がかかりある。2ヶ月やると相当の費用になる。そういうのが増えてくると、資料で金額が書かれているが、本人は年金生活で、息子たちは他へ行っている。現実にもそういう方が増えていくとどうなるか不安はある。

西宮会長

関連して、地域運営体もしくはボランティアに高齢者から要望があった場合に行くのか。それとも近所の人が見て危ない場合、行ってくれるのか。

鈴木企画振興課長補佐

地域運営体の関連について、依頼があった場合に出動するようだ。ただし有料、無料の場合があり、運営体の判断で無料で実施する場合もあるようだ。

藤原委員

自分も高齢者になってきているが、まだ動けるので、除雪については、今のところ特別問題はない。

戸澤委員

中川地区ですが、自分が見た限りでは、除雪について早い、遅いはあるけれど気持ちのいい除雪をしてもらっていると思う。要望は特に聞こえてこない。頑張ってもらったと思っている。

高橋委員

菌田、釣田地区で気になる点は、市道と県道の交差点について、どちらなのかかわからないが見通しがとても悪い。どちらでやるのかかわからないが、事故が起きる可能性がある。一人暮らしの場合で、隣近所に除雪機がある場合、雪が多く降った時頼んでいるようだし、屋根の雪が走って、玄関に入れないような状態の時も無償かわからないが、個人的にやってもらっているようだ。トラブルは見えない。ただ交差点の見通しはよくしてもらいたい。

藤井委員

中川地区の寺沢を中心にしてよく見たつもりだが、除雪についてはこれまでよりいい。しっかり除雪してもらっている。各家の前に置かずに、空き地へ置くなど、気を遣ってくれているのがよくわかる。気になるのは北沢地区。峠があり、町から右の斜面が高い段になっていて、なだれの危険性あったが、今回は防がれていた。市で気を遣ってパトロールしてくれたと思っている。10戸あり、通学路にもなっている。18年には人夫をかけて除雪した。雪崩になった場合は大きな被害になるので、十分な配慮をお願いしたい。そこに雪崩危険の標識など、除雪の雪がたまっても見えるぐらい高くて頑丈な看板が欲しい。

今回避難マップが配布された。地震等の防災マップですが、大変よくできていて参考になった。地震、水害に十分活用できる内容だが、昨年8月の集中豪雨で寺沢地区が一番水浸しになった。うちも小屋が浸水した。春先の融雪水を考えると、避難場所を考えておきたい。避難場所は中川公民館、中川集落センター、中川山村広場3つがあるが、場所として同じ所になる。私は中川集落センター1箇所にまとめてもらえば、まちがわれないと思った。

路肩の雪は高橋さんが言ったとおりである。特に十字路の場所はかなり雪高く、全く見えない。道路に出て初めて車が来たのが見える。危険だと思う。

川原会館前の十字路付近に、車が落ちている場合がある。芝浦電子に向かう結構大きい車が落ちている場合がある。原因は道が非常に狭い。県道だが

拡幅をお願いしたいとみんな思っている。高齢者関係の除雪は、親戚関係で除雪に来ているので、特に問題はないと感じている。

#### 茂木委員

雲沢地域の運営体の除雪について、ある程度の実績を上げているようだが、やる前に気になったことで、道路までの除雪について積雪が 15 cm 以上の場合やることになっているが、西長野地区でやってもらう人、やってくれる人を募集したが、やってもらう人も都合が悪くてやってほしいと言えないうちもある。やってくれる人も雪が降った場合、自分の家の除雪が終われば、働きに行かないといけない。なかなか人が見つからない。幸い私の担当の所は、やってもらう人、やってくれる人はいなかったが、これから除雪をやってもらうことはいい事だが、やる人を探すのは大変。休みのボランティアはいるが、降った時の人を見つけるのが大変だと思った。

#### 相馬委員

住民としてと、会社で除雪の仕事を請け負っているそちらの立場からも、話させてもらう。やっぱりきめ細かな配慮の整った防災なり、除雪なりをするには、金かけるしかないと思う。先ほどから交差点回りの話出ているが、雪が多くなれば、除雪する人も 12 時から 7 時までに終わらせないとけない時間の制約があってゆっくり出来ない。こなすだけで時間まで終われないのが現状です。そこを何とかしようと思えば、日中もう一度誰かが点検して、朝のラッシュが終わってからもう一回まわるとか、雪が多くなってくると復員も狭くなり、交差できない所が出ているが、地域の人是我慢している。時間ある場合に市役所もしくは業者で、幅出しするような形でやっていけばいいが、それも予算との兼ね合いある。結局はそこにどれぐらい予算をかけるかという話になる。

うちの会社にもよく頼まれるが、屋根の雪下ろしやっているのかと話来る。基本的には雪下ろし専門の会社でないのでやっていないが、どうしてもという場合はもう 1 度連絡してと言っている。うちのとなりの 80 歳くらいの人が屋根に上がって雪下ろししているが、5 回やれば 1 回は落ちそうな気がする。雪下ろしのネットワークのようなもの必要じゃないかと思う。どこに頼めば、紹介してもらえるのか探している人も結構いると思う。

#### 能美副会長

一人暮らしだと、自分ではおろせない。おろしてあげようと思っても上れないぐらい高い所ある。夏の間でそういうものを把握する方法をとられないか。社会福祉協議会と連絡取って、対応できるか夏の間で考えて置かないと。いざ冬にあがったら雪止めなく落ちたとか安全装置付けておかないといけないなど、基本的なこと。また各地域でまとめる人作って。お金払ってやって

もらう人はいいが、一人暮らしでやれない、お金払えない人もいる。そういう人の把握、マップじゃないがそういうシステムを作るのが先決だと思う。あとは空き家対策もあるが、みんなただとはいかないと思う。ボランティアで亡くなっている人もいるので、安全なシステムを作ってもらいたい。

西宮会長

見通しが悪いのはわかるが、どこに連絡すればいいのかわからないので、面倒くさいのもあるし、町内で一人暮らしで大変だと思っているが、誰かしらがやってくれると思って、気がかりだけど通り過ぎるといのは、私ばかりじゃないと思う。

町内の誰かに話せば、話を通じるシステムが整備されていけばいいのかと思った。雪害だけでなくなんでも。私も町内連絡員でナビを配っていた。行政連絡員という立派な名前がついているが、こちらから自主的に町内の困りごとを連絡すればいいが、どこに連絡すればいいのかわからず面倒くさくてやめてしまう。市長の話ではナビの配布はないが、行政連絡員の会議は残すとやってたような気がするが、その後何もない。

今は地域運営体が出来ているが、それほど大きくなくてもいいが、学校の連絡網みたいなものがあればいいのではないかと感じる。それは市役所の方でやれと言うのではなく、それぞれの町、町内で日頃から組織化されていて、いざという時に実際にやれる。普段から活動して、お互いになかよくなり、時には訓練していかないと対応は無理じゃないかと思う。

鈴木(重)委員

桜美町の通り、流雪溝の時間が非常に危ない。道路も狭いし、両側から雪投げに来るので。出来ればその時間帯だけでも一方通行にするとか、迂回路の表示を付けることが出来ないものか。その時間帯だけでも規制できないか。

相馬委員

角中の歩道側の木は切られないか？道路狭いのに、木が邪魔。車は意外と通るし。

茂木委員

木の外に歩道ある。木を切ればその分車道が広がる。

相馬委員

反対側は家があって難しいだろうし。それと中学校の正門の所の入り口に街灯がなくて危ないといつも感じる。

高村環境防災課長

それについては、早急に確認し、対応したいと思います。

西宮会長

他に自分の地域にかかわらず何かありませんか。

茂木委員

さっき支援活動について人がいなかったと言ったが、支援活動のグループやるものによって、集め方が違って来る。雲沢では毎日雪が降った時に寄せると言ったので、人がなかなかいなかった。入り口にたまった雪を寄せる場合は、休みを使って活動することが出来る。そうなら協力してくれる人を集めやすいと思う。今、問題になっている屋根の雪下ろしは、危険を伴うので、ボランティアで引き受ける仕事ではないと思う。何をやるかによって、集める人も違って来るし、集め方も違うと思う。

藤井委員

さっきから問題になっているボランティアでも何でも、除雪、排雪、屋根の雪下ろし等で、事故があった場合の補償について、市として何か取り組んでいることがあるか。

鈴木企画振興課長補佐

運営体のボランティアについて、今回収集した資料では、全ての運営体で保険加入の確認は取れなかった。雲沢地域運営体については、ボランティア登録した方は必ず保険の加入手続きを取るようです。他についても、損害保険に加入するという話は聞いている。あくまでも運営体の方で掛け金をかけて、保証ということになる。最低限でも保険に加入するように、担当している政策推進課に話していきたい。

藤井委員

個人で入るものか、その会で入っているものか。市として入っているのか。

鈴木企画振興課長補佐

市では、入ってません。今までも運営体で全部まかなうのか、個人負担もあるのか。

藤原委員

シルバー人材センターでは、会員になると全部保険に入る。全部を対象にかける。行って何か事故起こった場合は保証になる。

藤井委員

神代では若い方。ボランティアでも何でもそれなりの保証がなければ惨めではないかと個人的に思う。市として、十分な保証がなされる方向で出来ないか。要望です。

藤原委員

地域で作業する場合、ケガされれば困ると言っても、朝どんな人が集まるかわからないので、前日に入っておくのは無理だし、朝来た人を確認して保険に入るのは、時間的な制約で無理だと思う。

能美副会長

組織化という取り組みで、保険は個人でかけてもらおうという方向でやるしかないのでは。

茂木委員

雲沢では、除雪隊に入った人は名前を登録して、その人たちが入っている。高額ではないと言ったが、屋根の雪下ろしはしないので、あんまり高額なものには、入っていない。

能美副会長

これからは、屋根の雪下ろしも必要じゃないか。

相馬委員

市の方で指導して、もし出せるのであれば、補助とか負担金として出してもらって、入るのは個人でしか出来ないのではないか。

能美副会長

運営体はどこにでも出来るものではないし、旧角館町の中は、いろいろあって出来ないと思う。別の形で、除雪とかもしボランティアとかで支えるのであれば、ルールを決めないといけない。危なくて、親切だけではできない。

佐藤企画振興課長

今は、個人で頼めば、個人で補償しなくてはいけない状況になっている。今回の神代の例は、完全なボランティアのようだ。

能美副会長

もう少しルールを作って、一人暮らしはお金を出せない人もいる。ボランティアでおろすとすれば、安全確保の面のケアをしないとやっていけないと思う。

茂木委員

何でもやるグループを組織しても、その中で屋根に上る人が少ない場合、全員に高い保険をかけるのも厳しいので、ある程度専門的にやる人を作らないと。

高村環境防災課長

基本的には、今回の神代の方は、好意的に誠意で隣をやったものだが、地域ごとの全体的な取り組みとして、みんなで冬場になる前に話し合いで、地域ごとにみんなで取り組めるような形を、作っていただくのがいいと思っている。その中で保険とかも出てくると思う。個人としてボランティアでやるからという人に市として補助していくことは、今後考えていく問題だと思う。雪下ろしについても若い人がいない。仙北市で 11 人が被害を受けたが、高齢者がケガしている。50 歳 5 人、60 歳 1 人、70 歳 5 人で若い人がいなくて、高齢者ばかりが事故にあっている。仕事の関係もあると思うが、若い地域ボランティアが薄くなってきていると考えている。

能美副会長

一人でやらないような組織で、今日家でやるもしくはやらなくても見ているというシステムを作らないければ、一人でやるから落ちたり、雪かぶって死んだりする人が出る。これから高齢化していくとなおさら増えると思う。

佐藤課長

市としては、地域運営体で進めている。ただ旧角館は難しいという話が出ている。そのあたりの対応をどうするのか。運営体ではなく町内会、お祭り単位で、除雪ボランティア的な形式を取るとした場合、市として運営体みたいな補助出来ないかという話だと思うので、現状を伝えて、返事を差し上げたい。ただ非常に難しいと思う。

藤原委員

ボランティアで自分で保険かけてまでは誰も来ない。

能美副会長

それは有償の場合。無償で、保険かけてまで危険なことは誰もやらないと思う。まるきりただでやるボランティアじゃないと考え方を変えるべき。

佐藤企画振興課長

西木の会議でも出たが、運営体はあるが集落集落のつながりが希薄になってきている。下手に言うとプライバシーの侵害という問題が出て来て困った。また、行政連絡員みたいな組織化が出来ないか。区長みたいな人をおいて、うまく地域を動かす方法が出来ないという話も出た。そのあたりも今後まとめていってどうするか。裏ではプライバシーの問題、日赤の仕事、福祉の物売りを請け負ったなどの問題、事件があって、行政連絡員がなくなった。もう一度ふるいにかけて、みんなが必要となったらまた作られるのか。宿題として今日預かって検討していきたいと思います。

茂木委員

実際除雪やるとなった場合、あそこやればこちらもやらないといけない。またこちらはいらぬという話になったりする。線引きが大変だ。地域運営体は、どこでも要望ある所に行くというものではない。

能美副会長

収入ある人もいるし、いろいろな家もある。区分しないとけない。

佐藤企画振興課長

そのあたりが難しいと思う。西木では昔一人暮らしの家に旗を立てて除雪の雪を残さないようにしていたが、逆に一人暮らしがわかられるのが嫌だ、防犯上の問題等があり、プライバシーの問題等でやめた経緯があった。

能美副会長

高齢化になれば、それが問題になってくる。

西宮会長

高齢化が進む。行政側はますますスリムになり、人数的にも苦しくなる。そうなればやっぱり地域で頑張れるところは頑張らないといけなくなる。やり方はいろいろあるが、クリアしなければならない問題がある。やっぱりひとつの町内、部落だけでなくお互いいい知恵を出し合って、新しい時代にあったよい方策を考えていかないといけない。今日はこういう感じでいいでしょうか。

鈴木企画振興課長補佐

2回目、3回目とありますので、その時に。

西宮会長

今回は、いつ頃。

鈴木企画振興課長補佐

地域防災のありかたについて、今回の雪の対策、洪水の関係と台風ということで、6月頃を目途に第2回目を開催したい。その時に今回いただいた意見について、項目の各対策でかなり重なる部分があるので、次回にでも今回の雪の部分で思いついたことは、出していただきたい。

佐藤企画振興課長

こちらで3箇所回って出た意見をまとめたものを、皆さんにこれは今すぐ出来る、これについては検討中だという棲み分けをして提示したい。それについてもう少し踏み込んで行かないと、ただ話を聞いただけで一方通行になる。除雪業者との話は、担当が建設課になるので、いろいろすりあわせして、専門の方から話を聞いて、皆さんにお答えしていきたいと考えてます。

皆さんからの要望も聞きっぱなし、言っぱなしにならないように反映したいと考えてます。

鈴木(重)委員

社会福祉協議会の雪のボランティアについて、1月末からとなっているが、今年はそれより早く降ったので、もう少し早く雪の状態を見てから、早くできないか。

佐藤企画振興課長

そういう要望があったと伝えます。

藤原委員

資料は、とおし番号でお願い出来ないでしょうか。

鈴木企画振興課長補佐

大きい様式については、記入するものなので出来ないが、その他の資料については、まとめて出すようにします。

西宮会長

さきがけに、市長が市民サポートセンターで、職員が地域に飛び出すサービス前線基地という表現があったが、これから作るのか。見守り防災御用聞き活動って書いてあった。具体的にどこに連絡すればいいのか。市民分権システムの確立に今年は頑張るとある。行政サイドで出来ることも限界があると思うが、それぞれの部落、小さい町、町内単位にドッと投げ出されても困るし、そこら辺を詰めていくのが会の役割だと思っている。次回は洪水と言うことが中心ですが、防災という意味ではみんな重なっていく。それぞれの地域、旧角館を全体的に見て、問題点なり、方策なりを考えて、次回に具体的に出してもらいたいと思いますので、よろしくお願いします。

(15 : 45 終了)